茨木市立　天王中　学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成２８年１０月作成

1　今年度の結果と取り組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった。

②書くこと
概ね良好な結果であった。

③読むこと
概ね良好な結果であった。

④言語事項
概ね良好な結果であった。

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった。

②短答式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
比較的正答率の高かった問題は、漢字や読み取りの問題。

比較的正答率の低かった問題は、目的に応じて読み取る問題や、書き手の意図を理解し、自ら発信する問題。加えて、慣用句の問題。

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
該当設問なし

②書くこと
概ね良好な結果であった。

③読むこと
概ね良好な結果であった。

④言語事項
該当設問なし

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった。

②短答式
概ね良好な結果であった。

③記述式
概ね良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
比較的正答率の高かった問題は、読み取りの問題である。

比較的正答率の低かった問題は、目的に応じて読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題である。

分析

朝読の時間などで読書に親しんでいるため、読む力が育っている。また、普段から語彙力を鍛えてきたため、漢字の読み書きは概ねできている。作文・感想についても、日々の積み重ねの成果として、自分の思いを書くことができている。基礎は身についており、多くの生徒は意欲的に取り組んでいる。しかし、日常的に自分が発する言葉として身についていないため、応用力に欠ける面がある。また、目的に応じて読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめて書くことには弱さが見られる。自分の考えに自信が持てないのかもしれない。

この課題を克服するために、筆者の意図を捉え、自分の考えを書き、発表する授業を展開していくことが望ましい。

○●　数学　●○

算数・数学A
（領域ごと）
①数と式
概ね良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった
④資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
◎短答式で正答率の低かった問題
＜図形＞
円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の 1/3 であるという問題
＜関数＞
比例の式について、x の値の増加に伴う y の増加量を求める問題や、 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している問題

◎短答式で正答率の高かった問題
＜数と式＞
正負の数の加法の計算、2 つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2 つの二元一次方程式で表す問題
＜図形＞
平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求める問題
＜関数＞
比例の表を完成させる問題
＜資料の活用＞
簡単な場合の確率の問題

算数・数学B
（領域ごと）
①数と式
概ね良好な結果であった

②図形
概ね良好な結果であった

③関数
概ね良好な結果であった

④資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
◎記述式で正答率の低かった問題
＜図形＞
付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる問題

◎記述式で正答率の高かった問題
＜数と式＞
適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する問題
＜図形＞
筋道を立てて考え、証明する問題
＜関数＞
与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題
＜資料の活用＞
資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題

分析
数学A
知識理解の分野では、自然数や一次関数、資料の整理は、忘れてしまっており、復習ができていなかったことで正答率が低く、その他はしっかり身についている。数学的技能は、日頃の授業で演習の成果もあり、正答率が高かったので、この調子で学習させていきたい。
数学B
数学的な見方や考え方の問題で、説明したり証明したりする問題が比較的良くできていた。これは、授業において自分で考える時間を設け、その時間を生徒達が諦めずに考えてきた成果である。問題解決の方法を順序立てて考える力がついてきている。

○●経年比較●○

◎全体的な傾向についての分析

無解答率は過去６年間で最も高い結果となった。そのため、平均正答率も過去６年間で最も低い結果となってしまった。無解答率については、６年振りに全国平均を上回ってしまった。最後まで諦めずに問題に取り組む姿勢、学習意欲の低下が見られた。分析を始めた平成１９年度から比較すると向上傾向にあるので、学習意欲向上に関する取り組みの強化が課題である。

◎学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層に例年との変化は見られなかったが、学力低位層は大幅に増加してしまった。学力高位層が学力低位層をやや上回っているが、中間層も含めて見ると、勉強が分からない生徒が増えてきていることが分かる。

テスト前の学習会への取り組みや、夏休みの学習会などを実施してきた成果もあり、意欲的に学習に取り組む生徒も増えたのも事実である。

○●取り組み●○

◎学力向上に関する取り組み

・学習目標カード、ｐｏｉｎｔカード、振り返りカード
→各授業の時間内の到達点を明確にすることで生徒が考えやすくなり、意欲向上にもつながる。
→振り返りをすることで、各時間の学んだ内容を思い返すことができ、定着率の向上に繋がる。
→ポイントを提示することで、視覚的にも見直しをするときに、大切な部分を思い出しやすい。

・チャイム着席
→生徒も教師もチャイムは教室で聞くことを意識することで、授業の開始から集中して取り組める。

・朝の読書タイム
→全校体制でMT前の１０分間を朝読にすることで、１限目から静かな雰囲気で授業に取り組める。

・学習会
→少数で取り組めることで、普段は質問しにくい生徒も分かるまで聞くことができ、意欲向上に繋がる。

・学習の手引き
→年度当初に各教科より、授業の受け方、評価の仕方、家庭学習の仕方をプリントにして配布。
家庭学習の定着への取り組みの一環である。

◎今後の課題

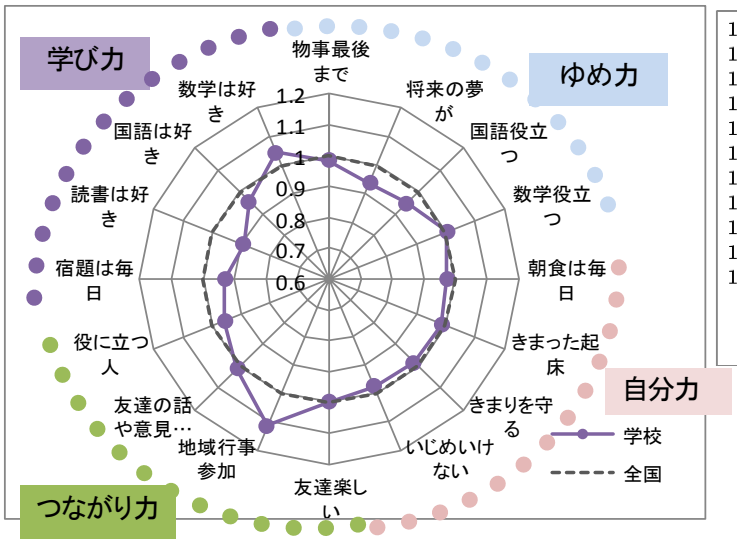
・表現力の向上
→　授業内での効果的な言語活動の取り組みを更に進めていく。
一人で考える　→　ペア・グループでの意見交流　→　全体での発表・共有
といった流れを様々な教科で取り入れていきたい。
そうすることで、自分の考えを他者に伝えるということを日常化していき、
生きる力の育成にも繋げていきたい。

・小中連携
→中１ギャップ解消のために、小６から中１の不必要な階段の差をできるだけ取り除けるよう、中学校から小学校へ週に１回出張授業（入り込みなど）を行っている。小学校と連携して、中学校区内での授業スタンダードの検討・授業交流・生徒理解を今後も続けていく。

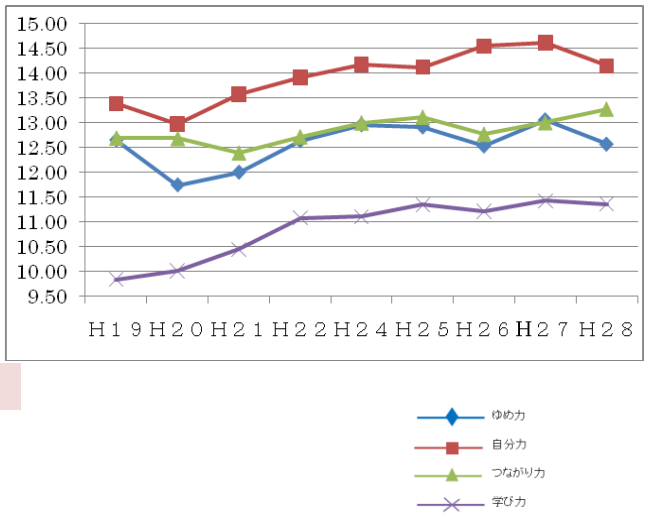
・家庭学習
→授業は落ち着いた環境でできているが、宿題を含めた家庭学習の定着率は低い。学習の手引きを作成し、家庭学習の意欲付けに繋げたい。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分　析

自分力(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)

→“学校の決まり・規則を守る”、“いじめはどんな理由があってもいけないことだ”について前年度より下回ったが、経年比較では上昇傾向にある。自らの力を高める取り組みを生徒会、委員会活動中心で行っているので、今後はそれが生徒一人ひとりに広がっていくかが課題である。

学び力(学校の授業等で、意欲的に学ぶ力)

→今回、“数学が好き”の項目で大きく上昇する変化が見られた。ゆめ力にある“将来役に立つか”という項目でも全国平均を上回る結果となった。いかに教科を好きにさせるか教師一人一人の授業の工夫がカギになることが分かる。

つながり力(他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力)

→向上の要因となったのは“地域行事への参加”で全国平均を大きく上回ったためである。地域のお祭りへの参加、清掃活動への協力などが地域との繋がりと分かったからである。他人のために頑張れる気持ちを育てられるかが課題である。

ゆめ力(将来展望を持ち、努力できる力)

→“物事を最後までやり遂げて、嬉しかったことがある”、“将来の夢がある”が全国平均を下回り、気がかりである。“今の学習”と“将来の夢”のつながりを実感できるようにすることが課題である。

取り組み

自分力

→生徒会が主となり『おはよう運動』を各委員会と連携して継続的に実施。今年度は生徒総会にて可決された「朝読パーフェクト作戦」を、学級委員、生活委員、図書委員を中心に実施している。８時３０分には自分達で静かに朝読を始めようと、各委員会が協力して、自治の力を高める取り組みを支援している。また、普段の授業や道徳、総合の時間に差別を許さない人権学習や命の学習も１年時から継続的に実施しており、通信等を活用して情報提供・啓発にも努めている。

学び力

→学力向上担当者が中心となって『魅力ある授業づくり』(グループ学習・基礎・基本の徹底)を推し進めている。校区合同研究授業や授業力向上学習会等、小中連携や若手教員へのサポートも組織的に行っている。今年度は、各教科より学習の手引きを作成して、普段の授業、テスト勉強、家庭学習への取り組みについてのアドバイスを配布し、日々の学習の定着を促す試みを実施した。

つながり力

→ふるさと祭りへの参加、清掃活動等の地域行事への参加率が高いことが分かった。校内での横の繋がりや、気配り、思いやりなどを育むことが課題である。

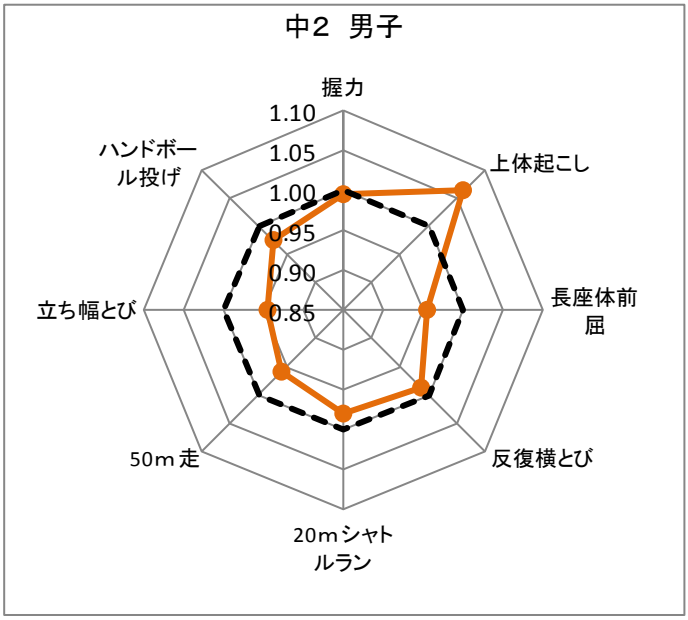
ゆめ力

→２年時には『職業聞き取り』や『職場体験』などのキャリア教育を行っており、３年時にも進路学習を通して自分自身の将来と今の自分を見つめ直す時間を設けている。また、授業においても小さな目標を積み重ね、達成感を得られるように進めていきたい。

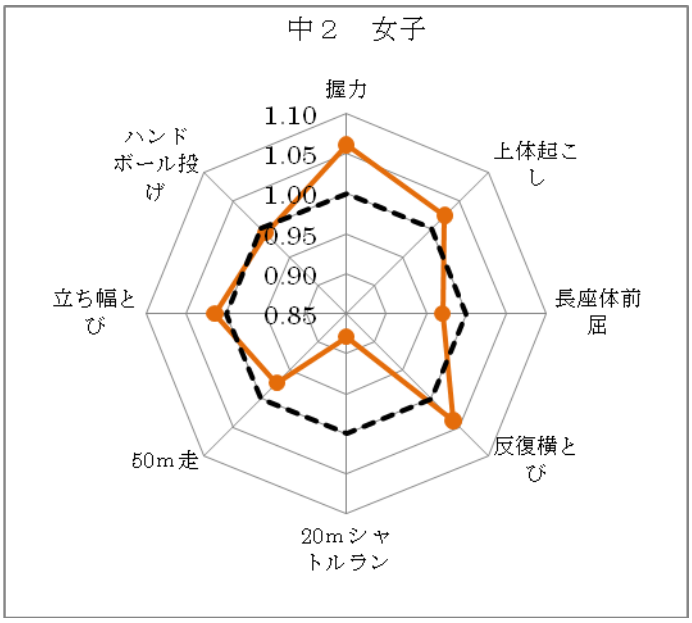
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（中2）



女子（中2）



分析

男子は全国平均を上回っている種目と下回っている種目の差が大きい。
女子はほとんどが全国平均と同じくらいか上回っているが、20m シャトルランだけが極端に全国平均を下回っている。
男子においては、上体起こしのみが大きく全国平均を上回っていることから筋力は高い。一方で他の種目はすべてに置いて全国平均を下回っている。特に立ち幅とびが低いことから敏捷性が低いと感じられる。
この結果から筋力はあるが敏捷性や柔軟性が低いため、敏捷性と柔軟性を向上させる必要がある。
女子は反復横とびや握力・上体起こしは全国平均を大きく上回っている。一方で 20m シャトルランが極端に低いため持久力を向上させる必要がある。また昨年度に比べて全体的に向上傾向にある。
この結果から筋力や敏捷性はあるが、持久力が低いため、持久力を向上させる必要がある。

取り組み

男子においては、全体的な向上が求められることから、準備運動や補強運動を充実させることで向上させる。精神的に幼く、準備運動や補強運動など、一見単調に思えるような内容に真面目に取り組む意欲に乏しい傾向がある。これらの必要性を十分に理解させる丁寧な指導が求められる。規範意識も低く、楽な方向に流れる部分もある。身体的な成長と共に精神的にも中学２年生として良識ある行動がとれるように、粘り強く指導を繰り返しながら、スポーツの持つ楽しさ、きびしさを教えていくようにしていきたい。

女子においては、現状を少しでも上回るよう、準備運動から丁寧に行うようにする。補強運動においても腕立て伏せなどは正確に行えていないため、負荷が不十分な生徒も多い。個々の筋力に合わせて、負荷を調節しながら、しっかりと曲げ伸ばしができるよう指導しているところである。さらに各種目において、正確な動きを習得させながら、大きな動作で取り組めるようにし、体力の向上を図る。
また、どの種目においても活動時間をしっかり確保し、授業を通して体力の向上を図る。

２ ３年間の計画

（各校）　　（ブロック共通）

	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	効果的な言語活動の充実	持久筋力の向上	保幼小中連携を充実させ 共通理解を深める
平成２６年度	・教師間での授業参観を行いやすい雰囲気作り。 ・小学校との連携事業の模索・検討 ・言語活動への取り組み ・研究授業への取り組みの充実化 ・合同授業研でのテーマ模索 ・小学生との給食交流 ・部活紹介	・生徒の主体的な活動 ・体力づくりの重要性の啓発 ・補強運動の模索・検討 ・教師の指導力向上 ・体育的行事の模索・検討	・保幼小中それぞれの普段の様子・授業の様子を見合う。（ビデオ・通信などの交流も含む） ・小小連携事業 ・小中連携会議を中学校区全体に広げる ・各校の研修会の交流
平成２７年度	・教師間での授業参観・交流 ・教科共通の授業スタンダードの模索・検討 ・効果的な言語活動の模索・実施 ・小学６年生への体験授業 ・部活動の見学・体験 ・合同授業研でのテーマの検討 ・小学校への給食交流	・生徒主体の協同的な活動 ・運動機会の確保 ・継続した体力づくり（補強運動の継続化） ・運動への取り組みの二極化の解消 ・体育的行事の充実化	・体験授業（出前授業） ・部活体験 ・英語の派遣授業 ・授業スタンダードの共有 ・三校合同連携会議 ・幼小の交流
平成２８年度	・言語活動の充実化 ・各教科の取り組みの交流 ・小学６年生への体験授業 ・部活動の見学・体験 ・合同授業研の充実 ・小学校への給食交流	・活動的で協同的な取り組み ・集団行動の取り組み ・補強運動の充実化 ・運動機会の確保 ・体育的行事の充実化	・定例連携会議の実施